

報告

北海道マンモグラフィ読影医師講習会

去る平成19年11月3日(土)、4日(日)に北海道マンモグラフィ読影医師講習会を札幌市のアパホテル&リゾート札幌において開催した。

この講習会は前年度に引き続き、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会(以下「精中委」という)との共催の上、北海道よりの委託事業として実施した。

開催に先立ちご案内をしたところ、募集人員49名(全国的に精中委が実施する講習会の基本的人数で、読影のグループ講習を1グループ最大7名で、7グループで構成されているため)に対し、今回も80名近くの受講の申込があり、やむなく基本的に各医療機関1名とし、現在市町村健診に携わっていること、読影実績の多いこと等を基に受講者の選定をせざるを得なくなった。

受講できなかった諸先生には誠に申し訳なく、次年度に於いても本講習会を開催する方向で、現在調整をしております。

11月3日(土)の初日の講習は、午前9時に開講。受講者の中には交通の便があまりよくないにもかかわらず、早くより会場入りされた先生もおり、この講習会への強い関心が伺える中、6題の講義とグループ講習4カテゴリーを行った後終了した。

その後、別室において講師を囲む懇談会を開催し、最終日に向け、鋭気を養っていただいた。

11月4日(日)は午前中にグループ講習の残り3カテゴリーを行った後、昼食をはさみ、精中委が行う読影試験が実施された。

この試験には受講者49名全員が受験された。緊迫した空気の中、時間だけが刻々と進み、あっという間に試験時間の2時間が過ぎていった中、1名がA評価、15名がB評価となった。今回は試験の内容がより一層難しくなったため、A・B評価が前を下回ったが、講師の諸先生からは、講習会のあり方も含め、精中委に対し、配慮を要求していただくことになった。

A・B評価を受けられた16名中の先生には、希望することで精中委より「試験評価認定証」が交付されることとなっているほか、当日受講者全員に、北海道医師会長、北海道知事、精中委教育・研修委員長の3者連名で受講証が交付された。

今回北海道医師会で催した第2回目の講習会であるが、特に大きなトラブルもなく、無事終了することができた。この場を借りて講習会の開催にご尽力いただいた講師の諸先生に感謝申し上げ、報告を終わりたい。

—地域保健部—

全体講義、グループ講習講師

全体講義

- | | |
|-----|----------------------------------------------------|
| 講義1 | 乳がん検診へのマンモグラフィ導入と精度管理
田村 元 (KKR札幌医療センター外科) |
| 講義2 | マンモグラフィの基礎・撮影技術・被曝リスク
黒蕨邦夫(北海道対がん協会検診センター放射線科) |
| 講義3 | 乳がんの病理と画像
山城勝重 (北海道がんセンター臨床研究部) |
| 講義4 | マンモグラム所見用語とカテゴリー分類1(腫瘍)
安達武彦 (JA北海道厚生連札幌厚生病院外科) |
| 講義5 | マンモグラム所見用語とカテゴリー分類2(石灰化)
後藤 剛 (勤医協中央病院) |
| 講義6 | マンモグラム所見用語とカテゴリー分類3(その他の所見)
三神俊彦 (東札幌病院外科) |

グループ講習

- | | | |
|--------|-----|---------------------------|
| 腫瘍1 | 講師 | 池上 淳 (道北勤医協一条通病院外科) |
| | 準講師 | 正村裕紀 (JA北海道厚生連旭川厚生病院) |
| 腫瘍2 | 講師 | 早川善郎 (函館五稜郭病院外科) |
| | 準講師 | 後藤 剛 (勤医協中央病院外科) |
| 石灰化1 | 講師 | 九富五郎 (札幌医科大学第一外科) |
| | 準講師 | 蔵貫勝志 (北海道社会事業協会帯広病院) |
| 石灰化2 | 講師 | 高橋将人 (北海道大学医学部第一外科) |
| | 準講師 | 安達武彦 (JA北海道厚生連札幌厚生病院外科) |
| 構築の乱れ1 | 講師 | 鈴木やすよ (札幌医科大学第一外科) |
| | 準講師 | 増岡秀次 (札幌ことに乳腺クリニック) |
| 構築の乱れ2 | 講師 | 玉川光春 (札幌医科大学放射線科) |
| | 準講師 | 三神俊彦 (東札幌病院外科) |
| 画像評価 | 講師 | 藤光律子 (福岡大学医学部放射線科) |
| | 講師 | 田村 元 (KKR札幌医療センター外科) |
| | 講師 | 黒蕨邦夫 (北海道対がん協会検診センター放射線科) |



講師陣